

白藍塾オリジナル

2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・総合政策学部

今年度は、昨年度ともまた違って、学問・研究の方法論がテーマになっている。近年になかったテーマであり、その点でとまどった受験生が多かったかもしれない。

今回は資料の量が多いが、設問と関係のある資料だけを精読し、あとは読み流せばよい。資料5～7あたりは読む必要もないだろう。

各問の字数が少なく（問題1が200字×2、問題2と3が300字）、論述力よりも分析力や論点を整理する力が求められているという点では、2010年度の課題に近い。

ただし、問題そのものはかなり難しい。統計学の考え方について何も知らなくても、資料1～4を読めばある程度は理解できるはずだが、問2のようにそれを応用して答えを出すのはかなり困難だろう。

問1は、2つの資料を選んで、「データを用いることの利点およびその難しさ」をまとめるというもの。当然、まとめやすい資料を選ぶ必要がある。資料3・4のように、そもそも統計データの意義と限界を論じている資料を素直に選んでまとめるのが無難だろう。

問2と問3はセットになっているので、いっしょに考える必要がある。

問2でほとんどの受験生が苦しむのが、②の「定量的な指標」の提案だろう（「定量的」というのは、簡単に言えば、「数字で表せる」ということ）。ただ、この問題に的確に答えられる受験生がそれほど多いとは思えないので、的外れな答えにならないようにだけ気をつけるしかない。①を答えてから②を考えようとすると混乱するので、逆に②を考えやすい課題を選ぶようにするとよい。4つの課題の中では、(2)(3)あたりが考えやすいだろう。(2)であれば、待機児童の待機率や男性の育児休業取得率、(3)であれば、ある選挙区における議員定数をその地区の人口で割った割合などが指標になる。②が決まれば、③の内容も自ずと導けるはずだ。

問3は、問1の答えのどちらかを、問2のケースに応用して分析すれば、答えが出やすい。

いずれの設問も、字数が少ないので、基本型Aを使って書くのがよいだろう。

例年以上に、鋭さや独創性といったものは求められていない。設問のねらいを的確に捉えて、なるべく的外れにならないように正確・簡潔に答えることが重要だ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>